

要介護状態でも自宅で暮らしたい、困難になったら施設へ

子どもに頼らずに夫婦だけや一人暮らしのお年寄は、介護状態になっても住み慣れた自宅で介護サービスを利用しながら暮らし続けたいと望んでいます。施設へという人16%に対し、可能な限り自宅でという人は71%にもなります。老々介護や一人暮らしの介護状態でも自宅で安心して生活できるように福祉サービスや生活環境を整備することは、お年寄の願いを満たすと共に施設への依存を少なくして介護保険の財政的な負担の軽減にもなります。

一人暮らしが困難になったとき、子どもなど親族宅に同居できる、したいというお年寄は少なく、多くが介護施設や介護付き高齢者住宅などへの入所を望んでいます。特養だけでも入所待機者が約900人もいる現状は（諏訪広域）、お年寄や介護者が本当に困ったときに行き場がなくなるわけで介護難民とも呼ばれ施設の増設が求められています。

